

ふるさと研究ニュース

2024年夏号第32号
文化財保護課
ふるさと研究グループ



「ふるさと研究ニュース」は、市民のみなさんに、所沢のことを知っていただける機会や情報をお届けする情報紙です。所沢をもっと知りたい方、ぜひご活用ください。

秋田家住宅 特別公開します

7月20日(土) 10:00~16:00

随時見学可能

国登録有形文化財「秋田家住宅」



場 所：所沢市寿町 29 - 7 ※駐車場はありません

お 申 込：事前申込不要（自由見学）

お問合せ：所沢市文化財保護課へお願いします（ページ下）

幕末から明治・大正・昭和にわたり、織物の集散地として繁栄を誇った所沢で綿糸商としてその繁栄を支えた商家の建物です。今回は「第14回野老澤行灯廊火」とコラボレーションを行い、行灯の飾りつけや出店もあります。

第11回 ところざわ星空フェスティバル

所沢市の教育活動における自然科学分野の事業として、子どもから高齢者まで幅広い世代の市民を対象に、星空や宇宙、ふるさと所沢の歴史などを身近に感じるための学習の場として、開催しています。

ご家族の皆様で、夏の日午後の一時を楽しんでみませんか。

日時：8月18日(日)午後2時~午後8時30分(観望会終了時刻)

会場：生涯学習推進センター ※詳細は、「翔びたつひろば 8月号」をご覧ください。

協力：株式会社 ビクセン

後援：自然科学研究機構 国立天文台



詳しくは
このQRコードから！



主なイベント

- ★星空観望会（雨天・曇天中止）
- ★天体望遠鏡教室
- ★高校生サイエンス広場
- ★星空カフェ
- ★星の本のおはなし会と工作会
- ★星空モルック体験
- ★星空の絵画展
- ★昔のくらし体験
- ★ビクセン工作教室
- ★星空教室

※当日、グラウンドを駐車場として開放しますが、午後5時半以降は観望会準備のためグラウンドには停められません。観望会中(午後7時~8時半)はグラウンドからの出庫もできません。

小野家住宅いろいろの日

★令和7年度に国の重要文化財指定

50周年を迎えます



第4日曜：7/28、8/25、9/22、10/27、
11/24、12/22、1/26、2/23、3/23

小野家住宅は18世紀初め頃に建てられたと推定され、開拓が進んだ江戸時代の農家の住まいとして、現在も武蔵野の開拓農家の面影を残しています。毎月第4日曜に、防虫や屋根材維持を目的にいろいろで火を起し、煙で屋根をくん蒸します。（現：所沢市林2丁目426番地の1）

三ヶ島葎子資料室は開設30周年

市内三ヶ島まちづくりセンター内では「三ヶ島葎子資料室」を設けて、葎子の遺品や関係資料を展示しています。今年開設30周年を迎え、この5月には葎子が生涯に詠んだ約6000首の短歌から令和の時代に響く新たな100首を選びました（一般公募20首、市内小中学生10首、新版三ヶ島葎子全歌集刊行委員70首）。資料室開設時に記念事業として選んだ100首になかった73首が入り、令和にふさわしい内容となりました。

『三ヶ島葎子』（平成6年発行／122頁・1500円）

『三ヶ島葎子Ⅱ』（平成16年発行／140頁・500円）

『三ヶ島葎子Ⅲ 花おりおり』（平成26年発行／162頁・500円） **いずれも販売中！**

文化財保護課、三ヶ島まちづくりセンターなどで

「青鞥」（大正三年）に発表。夫となる倉片寛一への想い、葎子のまっすぐな恋情が表現されています。

水色の雨の中にて火の燃ゆる
夜明けの山に君を思へる

家の真上を飛ぶ飛行船に驚く葎子の気持ちがストリートにわかる一首。「短歌」（「武蔵野より」大正十二年）に掲載。

わが家のまうへをとほる飛行船
大なるもの空をゆくかも

葎子が麻布谷町の長屋で独り暮らしを始めた頃、「少女号」（大正十四年）用に選んだ十首の内の一。

夕立の雨なごりなく晴れわたり
星のすがしき夜ぞらとなれり



三ヶ島葎子
「令和の百首選」より

後藤新平の書に思う

〈ふるさと研究市民トピックvol.32〉

市に寄贈された資料のなかには、さまざまな“お宝”があります。その一つに後藤新平の書になる扁額があります（写真参照）。

後藤新平は、水沢藩（岩手県）土の子で、医師から政治の世界に入り、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、逓相、内相、外相、東京市長などを歴任しました。とくに、関東大震災の復興に内相として尽力したことは有名です。

実はこの後藤新平書の扁額は、昭和40年代の初めに市役所を建て替えた際に廃棄されるところを、奇々な方が拾って持ち帰り、その後市

に寄贈されて現在に引き継がれたものです。扁額には「上策、自治に如くは無し」と書かれています。意味は「最良のはかりごとは、自治によって成し得る」といったところ。「大正丙寅春日」とあるので大正15年の初頭と推測されます。調べてみると、大正15年1月25日に所沢演芸館で講演していることがわかりました。おそらくその時に揮毫してもらったのでしょう。言葉の出典は中国の書物からの引用のようですが、自治の本質を知る人の直筆の書は重みがあります。

この扁額が所沢町役場時代から市役所へ引き継がれたものの、その後廃棄されるところを拾い出されたことは偶然とは言え素晴らしいことです。これからも大切にしていきたい歴史資料の一つです。

